

第7回 まちづくり常任委員会会議録

令和7年12月10日（水）

委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告（15時50分）
- 2 調査事項
 - （1）教育委員会所管
 - ① 幌延中学校区小中一貫校建設について
- 3 その他
- 4 閉会宣告（16時31分）

○出席委員（8名）

委員長	4番	高橋秀之
副委員長	7番	斎賀弘孝
委員	1番	高橋秀明
委員	2番	佐藤忠志
委員	3番	深澤博幸
委員	5番	植村敦
委員	6番	無量谷隆
委員	8番	西澤裕之

○出席説明員

町長	野々村仁
副町長	岩川実樹
教育長	伊藤一男
総務企画課長	早坂敦
教育次長	古草勝
教育次長補佐	田村浩希

○議会事務局出席者

事務局 長	岡田英樹
-------	------

高橋秀之委員長

ただいまより第7回まちづくり常任委員会を開催します。

調査事項（1）教育委員会所管、幌延中学校区小中一貫校建設について説明をお願いします。

野々村町長

定例会終わった後、お疲れのところ、常任委員会を開催していただき誠にありがとうございます。

急きょ、こうして集まっていたいたのは、今日の中でもお話がありましたとおり、小中一貫校として、また拠点も含めて私の方からも、これだけの物価高騰の中での建設費の上昇がもう極めて大変だということで、子供たちの教育の場を不便させないで何とかもつと事業費の縮小をすることができないかということを教育委員会の方にもお話をさせていただいて、検討するのに少し期間がかかるということになりましたので、教育委員会の方から、るる説明をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

古草教育次長

それでは、私の方から事業規模の見直しと今後の事業スケジュールについて御説明いたします。

前回のまちづくり常任委員会でも御説明いたしましたが、この小中一貫校建設事業につきましては、既存校舎等の改修工事に加え、新たにメディアライブラリーなどが入る新校舎棟、屋内体育館、武道場、給食センターの増改築工事、グラウンドや駐車場等の外構工事、仮設校舎となる幌延中学校の改修工事が主な事業内容であります。既存校舎棟と仮設校舎の改修工事につきましては、必要な改修内容がほぼ確定していることから、増改築となる新校舎棟、屋内体育館、武道場、給食センターを中心に、教育に必要な機能を確保した上で見直しを行うことといたしました。

これに伴い、現在進行している実施設計業務の内容が大きく変更となることから、事業スケジュールについても見直しを行い、契約期間の延長を行いたいと考えております。

お配りした工事工程表を御覧ください。

上段の小中一貫校建設工事ですが、実施設計については、令和8年3月までの委託期間としておりましたが、これを令和9年1月頃まで延長し、令和8年8月頃から着手する予定でありました本体工事については、令和9年8月に着手し、令和11年5月頃までと考えております。

下段の中学校改修工事につきましては、当初予定していなかったプレハブの職員室設置に伴い、地盤調査が必要になったことから、これらを含めて、令和8年6月頃まで設計を行い、改修工事につきましては、令和8年12月頃に着手し、令和9年8月頃に移転ができるよう進めていきたいと考えております。

現在検討しているスケジュール内容については以上です。

高橋秀之委員長

ありがとうございました。

何か質疑あれば、マイクのスイッチを入れて、挙手をお願いいたします。

植村委員

今説明あったんですけども、資材の高騰等もあったりして、工事の予定が検討期間に入れると1年ほど遅れていくという説明があったんですけども、これから検討協議して、今までやってる基本設計で言われてるような小中学校の校舎の規模自体も見直すということなんでしょうか。

古草教育次長

現在進行している物価高騰につきましては、相当高額な上昇幅ということもありまして、相当規模の方を縮小しなければ事業費を抑えることができないということもございますので、先ほど御説明したとおり、中学校の改修と既存の校舎の改修内容については、ほぼ現在進んでいる設計内容で行こうと思っておりますけども、増築される部分等については、もっとコンパクトに事業縮小して、削るものを削っていかないというふうに考えておりますので、それらを含めて今後設計業者の方と、どういう方針がいいのかというのを詰めていきたいと考えております。

植村委員

具体的に今予想されている、縮小できる、ここは要らないんじゃないかとかっていう、要するに生徒の数だとか学校に対するその必要性だとかかっていうものを鑑みて縮小できるものは縮小していくという、先ほど説明あった武道館、体育館、その辺あたりなんですか。校舎自体、ロビーから始まって校舎の造りだとか、そこら辺の変更はないということなんでしょうか。

古草教育次長

まだ確定したものではございませんけども、ある程度事業費を抑えることになるのとすると、現在想定している範ちゅうでは武道場を取りやめます、それから給食センターの建て替えもやめます、既存の給食センターを使います、それからメディアライブラリーが入る新しい校舎と、新築する部分ですけども、そちらの方ももう少しコンパクトにするようなことをしないと、ちょっと事業費の方は抑えられないのかなと思って推定をしております。

植村委員

メディアライブラリーって何の目的の施設だったっけ。

古草教育次長

メディアライブラリーの入る増築等につきましては、現在、小学校、上から見ますとEという形に見えるような3本の校舎になってますけども、その横に足す図書館ですとか児童クラブですとかが入る予定でありました部分、完全に新築する部分の辺りをもう少し小さくしないと厳しいのかなというふうに考えております。

植村委員

今回こうやって急じゃないかもしれんけども、以前から予算規模が膨らんできてるんでということで心配はしていたんですけども、現実的にやっぱり、かなりの建設費になるということで、できれば、この時点で数字を出してやると一人歩きしちゃうということもあるんで、出さないということだったんだろうなと思うけども、どの程度の、かなりの縮小、コンパクトにしていかないと建設費を抑える。恐らく1年延びることによって、このまま鉄骨でも人件費でも水平に進んでくならないけども、また右肩上がりで上がってくる可能

性がある中で、やはり、果たしてどのぐらいの縮小効果が最終的に出てくるのかなっていう、本当に心配なところもあるんだよね。

せっかくやるものだから、やっぱり十分な学校教育、生徒のために十分な施設という気持ちはあるんですけども、これだけのやっぱり資材高騰っていうのは当初予想をされなかったという懸念もあるんで、まず1年延ばして、もうちょっと中身を精査して、圧縮、コンパクトにしたいんだということなんで、私としてはどこをどういうふうにするんだっていう、そして最終的にはどれぐらいの金額になるんだということをやっぱりきちっと見ていかないと何とも言いようないのかなという。そして、併せて、やっぱり補助額がどれぐらいであって、最終的に償還のシミュレーションがどうなるんだということもあると思うし、今からそういったその本体をいじるということに対して、今まで進んできた文科省あたりに提出した書類等もどういう扱いになっていくのかという心配もあると思うんです。そこら辺、やっぱりどういうふうになってくのか、確たることは言えないとは思いますが、そんな気持ちでいます。

古草教育次長

国の方の補助金につきましては、この規模が変わることによってまた再度計算し直しということになります。

今年の5月、それから10月に一度文科の方には、これぐらいの規模でやりますということで、補助申請の前段の申請まではしておりましたが、それについても一度白紙にさせていただいて、来年度また事業費がある程度固まった段階で、令和9年度の補助申請をしていくということで考えております。以上です。

植村委員

この件はもう道の方には、通告してあるんですか。これからなんでしょう。

古草教育次長

道の方には基本的に給食センターと校舎等別々の窓口にはなるんですけども、どちらに対しましても、ちょっと今事業スケジュールの見直しが必要になりそうということで、先週お話をさせていただいて、補助金については来年度、申請する予定でしたけども、こちらについてはちょっと取り下げる形になるかと思うということで説明をしております。でないと、本来であればもう道のヒアリング、工事の実施の方のヒアリングが入ってくる時期でございまして、もう本来であれば図面とか工事の内訳についても固まって、それを受けてヒアリングを受けて、補助申請という、年明けすぐにでも1月、2月にはヒアリングというスケジュールで進んでましたけども、こちら下げておかないと、次、そこまでいってしまうと、来年補助金使いたくても使えないということになってしまいますので、本申請の前に手を下げるということで既に打診はしております。以上です。

高橋秀之委員長

よろしいですか。

深澤委員

質問するつもりなかったんだけど今話を聞いてると、いや分かりますよ、議会で我々も、今までの計画だったら反対せざるを得ないなという感じではいました。

問題はこの先ね、行政側のとおり縮小して決めるって言ったけど、今まで関わった人

方、PTAや学校の先生や含めてどのように説明して理解を求めていくんですか。

伊藤教育長

今の深澤委員からもありましたけども、これから開校準備委員会、それから検討部会の方にまず説明をしていきたいと考えております。で、そのあと町民の皆さんにも、今まで説明会開いてますので、1月にまた皆さんのところにお話しさせていただくことになりますので、その後、そこで御了承頂けましたら、そのあと町民の皆さんの方にも、それぞれ説明会を丁寧に行っていければなというふうに考えております。

高橋秀之委員長

ほかにありませんか。

無量谷委員

今、経費節減のために給食センターと武道場はやらないってことで進めてるんだけど、給食センターについてね、耐震、あるいは広さとかそういうのは今で間に合うのか、その辺の確認したいんですけど。

古草教育次長

給食センターにつきましては現状も使っておりますので、今の建物をそのまま使うことに問題はございません。逆に本来この工事でいくのであれば、給食センターを一旦壊して、仮設の給食センターを建てて、そこでっていうことも検討しておりましたが、その部分は一切掛からなくなりますので、現行の給食センターを工事期間中も使える見込みで進めようと思っておりますので、給食センターについては今までどおりということで考えております。ただ、センターの機器も大分古いものもございますので、この際やらなきゃならない設備の入替え等は、この工事の中でやろうかというふうに考えております。以上です。

高橋秀明委員

今の話聞いて、やはり総事業費が幾ら掛かるかっていうのが問題だと思うんですよ。

1年延びることによって、1年は概算なんですけども、もう歯止めないぐらいの金額で言ってくる可能性もなきにしもあらずだと思うんですよ。だからその辺歯止めをどっかでかけるような形で、これ以上出せないから、あるいは、補助金がね、このぐらいになるからってことで、それを言ってやれないものかどうか。これだけ大型工事だとしたら、我々民間からしたらとんでもないような金額でね、やっぱり大変なことだと思うんですけども、そういう方法を取れないものかっていうことを提案したいと思います。以上です。

古草教育次長

事業費につきましては、確かに現在の鉄筋ですとか価格の1.5倍という話もございますし、かなり上がっていくものと思われます。延ばすことによって更に上がることも想定されますけども、現在頭の中に描いておりますのは、当初の基本設計時に示された金額を目標に、めどにして、その辺りまで、そこまで下げることは恐らく厳しいのかもしれないですけどもその辺を目標に事業規模を考えていきたいと考えております。以上です。

高橋秀之委員長

すいません。幾らでしたっけ。

古草教育次長

当初工事費におきましては58億8,800万です。

この数字を目標にというか、ここを目指してということで進めますけども、さすがに資材高騰ありますので、ぴったりここまで下げれるかというのはまだちょっと不透明な部分がございますけども、あくまでもその辺をめどにしていきたいという目標を持ってやっていきたいと思っております。以上です。

佐藤委員

粗々、今説明聞いて、これは担当者も大変な思いでやってると思いますけども、この円安がどんどんまた進んでいく中で、これだけ抑えていくたら大変な御苦労していかなきゃなんなと思います。また、今、教育長からあったように、また町民に説明だ、またいろんなものやってたら、またああでもない、こうでもないと出てくるんだろうし、相当腹くくって、もうやるってことで進んでるわけだから相当腹くくってやっていかないと、やるたんびにあっち削ってこっち削ってやってたら、これまた伸びていくんじゃないかなと思います。

だから、ある程度やっぱりこれは腹くくって、きちっと示してこれでやっていくんだとやっていかないと、また戻ってあちこちに意見聞いちゃうと、まちづくりの拠点じゃないですけど同じようなことになってしまっ、いつになったら結論出るのかってことになると思いますね。

だから、大変なのは分かるんだけど、そこである程度、腹をくくった形で進めてもらわないと、行ったり来たりして時間ばかり食うんじゃないかなと心配されます。

大変これ御苦労だと思うけど、我々もまた腹くくってかかってかなきゃなんだろうし、そこんとこ何とか一つ、ある程度めどつけてほしいけど、頑張っていかなきゃなんなと思います。

高橋秀之委員長

ちょっと一つ確認したいんですけど、前の委員会のときの資料の説明で、今、58億8千万円って言ったんだけど、そのとき56億8千万って言いませんでした。

古草教育次長

すいません。訂正いたします。

56億8,800万です。

高橋秀之委員長

すいません。ありがとうございます。

西澤委員

まず議会の方に説明ということで、これから町民、いわゆる委員会等に説明していくということだったんだというふうに思います。

その上で、今佐藤議員からは腹くくってという話もありましたけれども、実際どれくらい掛かるんだという話が見えてきたときに、この間の委員会でも言いました財政シミュレーション等そういう話が出てきて、いわゆるそういう縮小の判断をされたんだというふうに思いますので、腹くくるのはいいですけど、腹くくって突っ走られると、やっぱり、そこはそこで大変なことになりますので、いわゆる、こうやって議会にも説明をし、町民にも説明をしってというのはやっぱり一つ大事な過程なのかなというふうに思いますので、その辺の判断も含めて、今後進めていってほしいというふうに思います。以上です。

佐藤委員

今議長からあったように、腹くるってという表現が正しいか別としても、我々も当初からこれ見ていいんじゃないかと。いいかげんなその議会でこの委員会で承認してきてるわけでもない。我々も悪いと言ったら変ですけど、我々もこれ一応認めてうんうんと返事はしてきてるわけだから。

(深澤委員「してない」の声あり)

してないけど。

(深澤委員「何うんうんよ」の声あり)

意見も出てないわけだから。だからやるたんびにはまたこうなっていくわけだから、だから、いつまでこれやっていくんだということになると思いますよ。

意見聞けばまた戻る。足す、いや、必要じゃないかとなったとき、またどうするんだってことになってるわけだから、相当慎重なこのような中で、相当やっぱりきつい意見を出してってやっていかないと、やるたんびに行ったり来たり、行ったり来たりやって、時間ばかり過ぎて、事業費が膨らんでいく。やはり皆さんも相当やっぱり意見を出してももらわないと、分かっているのか分かってないのか黙ってここで座ってたって、後でどうなるんだということになると思いますよ。

事業費がこれだけのものになる。そのほかに拠点もあるわけだから。だから率直な意見を皆さんに出してもらって、意見を出していかないと、いつまでたってもこれ決ままないですよ。

これ11年8月だって、また伸びる可能性もあるわけだから、その辺とこはやっぱり慎重な意見をうんうんって見てるだけじゃ済まない。やはり、個人、個人の8人の意見は率直に出してって、腹を一緒にしてかからないと、これはやっぱり後で腹くらんと言った表現が正しいか別としても、そのぐらいの気持ちでかかっていかないと、これはやっぱりここまで持っていけないんじゃないかなと思いますんで、皆さんの意見もやっぱり出していきたいし、納得の上でこれ進んでもらわないと、お前が言った、俺が言わなかった、後でああでもない、こうでもなったんじゃ、これ、取り返しのつかんことになるわけだから、慎重な審議をしていかなきゃならんし、意見も出してもらいたいと思いますんで、私は私の意見でただしやべっただけであって、皆さんがどう思うか、それは、やっぱり持ってるたら意見を出してもらいたいなと思います。

高橋秀之委員長

ほかにありませんか。

植村委員

この学校建設に合わせて今職員住宅の整備してますよね。これは予定どおりに進んでいて、中学校の、今ある職員住宅開けたところに町職員が入っていくという構想、それは予定どおりやってくんでしょうか。

伊藤教育長

住宅の関係については今順調に進めますので、予定どおり工期内に建築されまして、完成しましたら先生方に移っていただくという形になってます。

よろしくお願いします。

植村委員

分かりました。

いろんな心配事いっぱいあるんで、一生懸命計算して予算組んだ方がいいけども、どこの町でも今問題になってるのが実施設計の段階で受ける業者がいらないというような話、こんな単価でできないというような、そういう全く、一昔前と変わった状況になってきているということもあるんで、そこら辺をきっちり、やっぱり、いや、できたけども、さあ発注したら誰もいなかったなんていうことにならないように、やっぱりやっていかなきゃならないのかなと思いますんで、よろしくお願いします。

なんせ文科省の工事単価自体が安いんじゃないの。今のこの物価高に合っていないんじゃないのかい。どうなんですか。

古草教育次長

補助金の計算につきましては、基本的な考え方として整備に必要な面積を出して、それに国で決めた単価を掛けて補助対象工事費というのが出るんですけども、単価については適宜見直しされております。単価について見直しをされておりますけども、それが追いつくかどうかというのはちょっと私どもも不透明なところでございますので、示されてみないと分からないというところではございます。以上です。

齋賀委員

すいません。実施設計、1年延長しますよね。その業者さんは了解得たっていうか、何かお話ししてるんですか。もう仕事入ってるからできないとか、そんなことはないんですか。

古草教育次長

当然このお話11月の末、12月頭ぐらいから動き出してる話なんですけども、すぐに実施設計を行ってる業者の方には、ちょっと方針転換をしたいというお話をして、このスケジュールにつきましてもその業者の方から、これぐらいのスケジュールになるだろうということで頂いた資料になっておりますので、設計業者が知らないということはございません。以上です。

齋賀委員

知らないということがないと思いますけど、それに対して何か経費掛かるとか何とかということはないんですか。

古草教育次長

経費につきましても今補正に向けて見積りを出し直してもらうということで進めておりますけども、実際にもう既にやってしまったものについては当然掛かったものとして、この後、本来やるべきだったものをやらなくてもよくなった部分、それから加えてやらなきゃならない部分っていうのが出てきますので、そのプラス、マイナスを精査して、今金額の方を精査している最中でございます。以上です。

高橋秀之委員長

一つ言わせてもらんですけど、今の説明では、中身的にはざっくりばらんで、はっきり言わせてもらったら分かんないです。

どこをどうして、体育館小さくしたからどのぐらい、給食センターやめたから幾らぐら

いっていう金額が出てきて、武道場もやめて幾ら、今５６億８，８００万だったんだけど、それをやめると５０億何ぼになるとか４９億何ぼになるとかって、そういう数字が出てこない、何かやっぱり、ちょっとぴんとこないですね。

頭の中で図面こことここを省いてっていうだけじゃ分かんないんで、なるべくなら、これとこれとこれをやめた場合には、もう実施設計入ってんだから、設計屋さんに聞いて、このぐらいうめれば、どのぐら減るのって、多分、今の給食センターとか何かっていう金額は大体、大まかに出てると思うんですね。それじゃないと５６億何ぼって数字って出てこないんで、そういうところを明確にさせていただいて、そして話をさせていただかないと、結局みんな素人なんで、具体的なものがないと分かんないですよ。比べるものがあるって、だから今５６億８，８００万円までに落としたいってというのは、１１年の開校時というかできるときまでの金額がこれにならないと駄目なんで、ということは２年ぐらい前から造ると１０％ずつ上がると２割上がってる。そしたら、これ黙ってても４０何億にならないと出先が。だから、今そんだけやったら、そんだけのものを省いたらこんだけ金額下がるってというのは分かんないんで、何か話しようがないかなっていうのがあるんで、その辺ちょっと、今の時点だからざっくばらんでいいんだけど、そういう金額が分かれば、そういうのを持ってきて話していただければありがたいなと思うんですけど。

１月の終わりにもあるんで、そのときでもいいんですけど、まずはざっくばらんでいいんですけど、なるべく詰めた数字をどんどん出してきていただければと思うんで、その辺をお願いしたいと思います。

西澤委員

今ちょっと委員長の話とかぶるというか、別に佐藤さんと意見が違うって話をしてるんじゃないくて、今ここまで来て、大まかにこれぐらい掛かるっていうのが見えてきたときに、拠点も含めて大体１００億規模になるねと。なので、財政シミュレーションがないと、こちらとしても判断ができかねるっていう話で、前回の委員会でそういう話をしたんですよ。なので、今、委員長が言ったように、多分これから実施設計の見直しをかけて縮小してはいくけれども、どれぐらいになるんだっていう話がないと、結局、また、なかなか議会としても判断、議会というか議員それぞれの個人でいいんでしょうけど、判断できかねるねっていう話なんだと思うんですよ。だから、これは、佐藤議員の意見が違うんじゃないくて、そういうところまで来ないと判断はなかなかできないけれども、でもそれには時間がかかるというのものもあるだろうし、ただその施設としては、私個人としては小中一貫の学校というのは将来に向けてもすべきだとは思ってるんですけど、それに対して、これぐらいの金額が掛かって、でも、将来的に超えて返済してって償還できますよってところまでがないとなかなか判断できないっていうのも多分今委員長がおっしゃってることなんだろうなというふうに思っているんですよ。

その辺の差異がない、行政側とこっち側の考え方に差があるのかなのか、その辺なんですよ。

野々村町長

委員長自体も議長自体も、まだ分かんない。私も実際問題１００億掛かるってというのは、私自身もここの中にいて知らない話ですから。けれども、だんだん膨らんでいっている、

このぐらいずつなるっていうお話は受けてた。どっかで縮小しないとこれは大変なことになるよねということ自体で、何か、どういう形で縮小しないかという、二事業の部分ではやってるということであって、我々ももっと素人なんですよ、議員の皆さん方よりも。

最終的にこういう形で、以前のスタートしたときの概算でその金額だったっていうときは、単価が安い自治体で掛け算をされて平米数に掛けて出てきてる。今度はこういう概算でこういう形になったらっていう、その想定金額も私自身は余りつかみにつかんでないけども、全体的にこんだけ膨らんだら、どのぐらいになってるっていう掛け算がもうここで本体はできてるんだと思いますよ。だから、これとこれとを削ったらこのぐらいになるっていう話は今、委員長が言ったとおり、そこは業者間で、これとこれと完全に無くなったらい、ここを潰したりすると、このぐらいの単価上がってもこのぐらいになるっていうのは、近々見えてくるんだと思いますけども、逆に言うと、そこに束縛をされると、なかなか今度上がったときにまた減らすのかっていう話の議論しかない話になるんで、そこはお金の形よりも目標があって言ってくれてるんですから、目標がそこにあって、1割、2割が上がるかどうかどうするかっていうのは今後の景気、高市さんに頼まなきゃ駄目だけど、どういう倍率で上がるか、ここの2年間だけは突発して上がった、1.5までもう上がってしまったから、シミュレーションは1.5上がった部分で差引きしてる、できると思うんです、業者は。だから、もうちょっと時間をいただいて、まずは、これが周りに、さっきの話じゃないけど、いろんな話が聞こえてきてる人はいろんな話を聞いて、うわさだけで流れていくじゃなくて、議員の方々にもそういう努力をして、いいものを造りたいよねっていうのを今やってるから、まずちょっと変更かけるよねって言ってくれてるんで、そこ自体で、今度、どことどこをどうやったら端的にこうだっていうだけじゃなくて、そこもこういう形にしたらとかっていう提案を受けながら、出てきた大まかなところで皆さんに大体こういう形になる、こういう部分で削るところは確定したみたいな話と、それから、おおよそ、こういうものになるかもしれないっていう話をすれば多分またそっちの方が先だと思うんだけど、どういう進行の方法がいいか、我々行政側も皆さんよりは全然、こういう建物だとか、こういうもの自体には疎い話で、やっぱり業者さんをお願いしてる部分で全部委ねてるから、これだけではこうなります、ここだけ取ったらどうなりますって言って、ぼんと返ってきてこうなりますっていう話をまだ出せないところがあるし、したら、その足りなくなった部分もどこに補強するかっていうことがある、今までの構図からいくと。そういうことも含めて、目標としては、そういうところを狙っていくけどもそこが1割、2割上がって60数億になるのかも分かんないけど、そこは頑張った末だったって言うんなら認めてもらわなきゃないし、何よ、そこもっと削れたべやっていうところがあって頑張るのかっていうのは、今後のそれぞれ業者さんで、1月、来年になったときに少しでも、細かいカットする分だけでも、細かいところ、又は増やさなきゃなんないところが確定してきたときに、またざくばらんな話だけど、そういう話をさせてもらって、前回のシミュレーション、今度はこれでシミュレーションしたら何ぼになるかで、やっぱり相談をしたいなという気はしてます。

そこはちょっと全部が金額で云々という話とはやっぱりちょっと。

(深澤委員「やめれって言ってないって町長」の声あり)

佐藤委員

今町長言ったように、これからまたいろいろ意見を聞いていくと、これまたPTAからいろんなその関係の中で、どうしてこれ削るんだと、ここだけは何としてもやってくれって言ったときにまた戻すのか。さっき言ったように、これもまた難題であって、いろんな議論、町民だ学校の父兄だとかとやったときに、この辺を納得できないといったときに戻すのか、そういう問題も出てくるんじゃないかなと。

町長おっしゃったことは十分分かるんですけど、これもやっぱり、そこら辺も含めてやっぱり臨んでいかないと、ああでもない、こうでもないってまたなってしまって、浮いてしまうことにならないのかなという、ちょっと心配されますけど、そこら辺のそこは、教育長、どう考えてるんですか。

伊藤教育長

今町長からもありましたけども、まずこの事業がずれていくっていうことを今日は御説明させていただきたくてお集まりいただきました。

お疲れのところ、ありがとうございます。

これを踏まえて、ずれていくっていうことをまず議員の皆さんにお話しさせていただき、この後、来週、再来週のうちに、さっき言った準備委員会と検討部会の方に、今年のうちにちょっとお話をさせていただきたいと思って、まず議員の皆さんに、ここのずれていくっていうことを承知っていうか合意っていうか、合議させていただきたくて今日お話しさせていただきます。

先ほど次長の方からありましたけども、設計業者の方には1月にあるシミュレーションというか経費の部分について今積み上げてってもらって、拠点の方と合わせて皆様の方にお示しできるように今、一生懸命積み上げてもらってますので、そこでまた説明をさせていただければと思います。

さっき次長の方からありましたけども経費を圧縮していくためにはやっぱり建築面積をちょっと減らしていかなくちゃいけないということで、改修部分についてはもう予定どおりの改修をして機能性をかなり高めれるような改修になってますので、それ以外の増築棟の部分何とか機能性を損なわないというか、子供たちが不便にならないような増築棟にちょっと縮小されますけども、その辺を考慮しながら今後やっていければなということで、概略で数字ちょっとまだ出せないんですけども、その辺を説明させていただければということで、今日説明させていただいてます。

準備委員会とか検討部会の方には、こういうことでときちんと説明をさせていただいて納得していただけるように私の方でも説明していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

高橋秀之委員長

学校自体、建築やめると言ってるわけじゃないんで。だけど今一番心配なのは、1年間延ばして考えていく。で、もう後戻りできないですよ、これ最終ですから。規模を小さくしてやるんだと決めてる。で、金額を抑えるっていう。だから、焦ってやっていくと、どっかに不備が出てくると思うから、まず、その辺だけ注意して、じっくり考えて使いやすい、子供たちの気持ちになって考えてやって、そういう学校を造ってやってほしいと私個

人の意見ですけど、そう思ってますんで、決して焦らず、焦って下手なことをすると後戻りできなくなるから。土木の場合だったら壊して造り直せばいいけど、建築の場合はもう打ってしまうと壊すのに3倍ぐらいまた掛かるんで、そういうのがあるんで、そこだけは気を付けてやってほしいなと思いますので、それだけ言わしてもらって、あと皆さん何もなければ、何か情報があれば事務局の方でも少し流しといていただければよろしいんで、よろしくお願いします。

今日はどうもありがとうございました。

その他。

(「ありません」の声あり)

これで、第7回まちづくり常任委員会を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

(16時31分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委 員 長 高 橋 秀 之

以上、記録する。

事 務 局 長 岡 田 英 樹